
2019年度 事業報告書

より良い 2020 年度を創りだすため



特定非営利活動法人
今治 NPO サポートセンター

目 次

Ⅱ 2019 年度事業報告	2
1. 今治市民活動センター管理運営事業	2
2. その他の事業	18
3. 会議に関する事項について	21
Ⅲ 2019 年度決算報告	22
Ⅳ 2020 年度事業及び予算	27
1. 2020 年度事業計画書	27
2. 2020 年度事業予算書	33

II 2019 年度事業報告

1. 今治市民活動センター管理運営事業

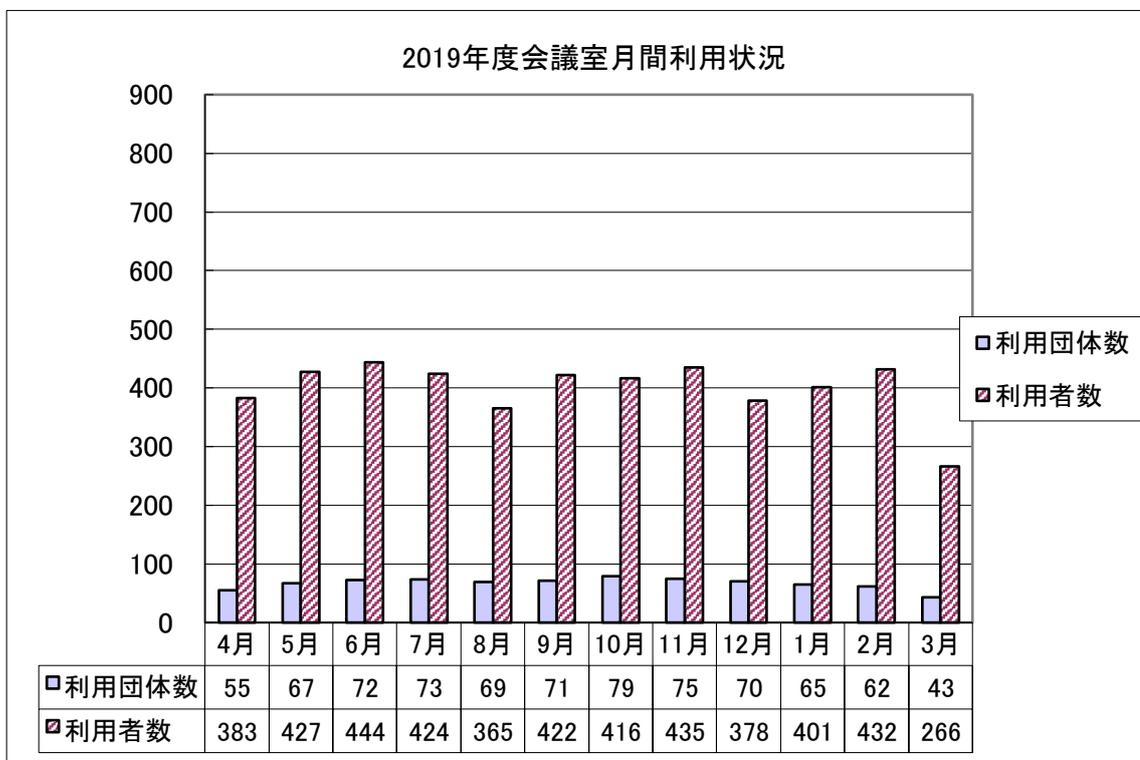
(1) 施設の運營業務（使用調整、受付・案内業務など）

内容	<p>通年事業（月から土曜日 10 時～19 時開館） （事前申込みがあれば、日曜日、祝日 10 時～18 時開館。平日 22 時まで開館）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸会議室の無料提供（登録団体に限る） ・機材の貸出 ・情報交流スペースでのインターネット回線の利用や書籍の貸出 ・貸事務所の効率的な運営
対象	センター登録者・市民ボランティア・一般
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは使用者と積極的にコミュニケーションをはかり、意見の収集に努めた。 ・事務所入館団体募集を広報、機関紙等で行い、入館を呼びかけた。
結果 課題	<p>会議室の利用者は 801 団体・4,793 人となった（2018 年度：796 団体・4,842 人）。キッチンが併設された大会議室の利便性から、少人数の会議等でも大会議室の使用を希望する傾向がある。また、エレベーターのない施設で、2 階中会議室への階段の使用に苦勞する来館者がおり、1 階大会議室の使用は譲り合っただけの使用を依頼している。使用人数が少ない場合は、中会議室の使用にご協力をいただくことで、多くの団体に使用開放ができています。交流スペースでは、会議の合間や待ち合わせなどの時間を利用し、書籍を読んだり、新聞記事に目を通したりする来館者も見られた。また、Wi-Fi 機能、作業スペースや作業資材の貸し出しにより、事務作業を行う来館者もいる。より多くの方にご使用いただけるよう、必要な設備、資材を整えたい。湯茶の準備、無料で使える備品、予約システムの簡便性など、引き続き、使用者の目線に立った運営を行いたい。</p> <p>今年度の登録は新たに 2 団体あり、使用にあたっての目的等を十分に伺い、市民活動の実践や発展を目指したものであるか判断した。会議室の使用については、各団体により、頻度は様々である。施設の存在の認知度は年を追うごとに高まっている。今後より一層、地域や団体、個人ボランティアへの使用を促したい。貸し事務室は、3 月末現在で 11 団体が入館しており、内 1 団体が 2 部屋を使用している状況である。新たに使用を希望する団体もあり、団体の事務室を持つメリット等を伝えたいと感じている。</p> <p>現在、使用状況の把握にあたり、使用届出書等には性別・年齢・居住地・来訪手段などの記入欄がある。次年度以降、性別欄を廃止する LGBT 配慮に取り組む予定である。講座や交流会の告知媒体にも同様の配慮を行う予定である。</p> <p>（使用者の声）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に使用させていただける。 ・使い勝手がよく、使わせていただいている。 ・この場があって助かっている。ありがたい。 ・トイレが増えないか。 ・駐輪スペースが欲しい。 ・自転車か濡れないように、屋根が欲しい。

2019年度センター利用状況詳細

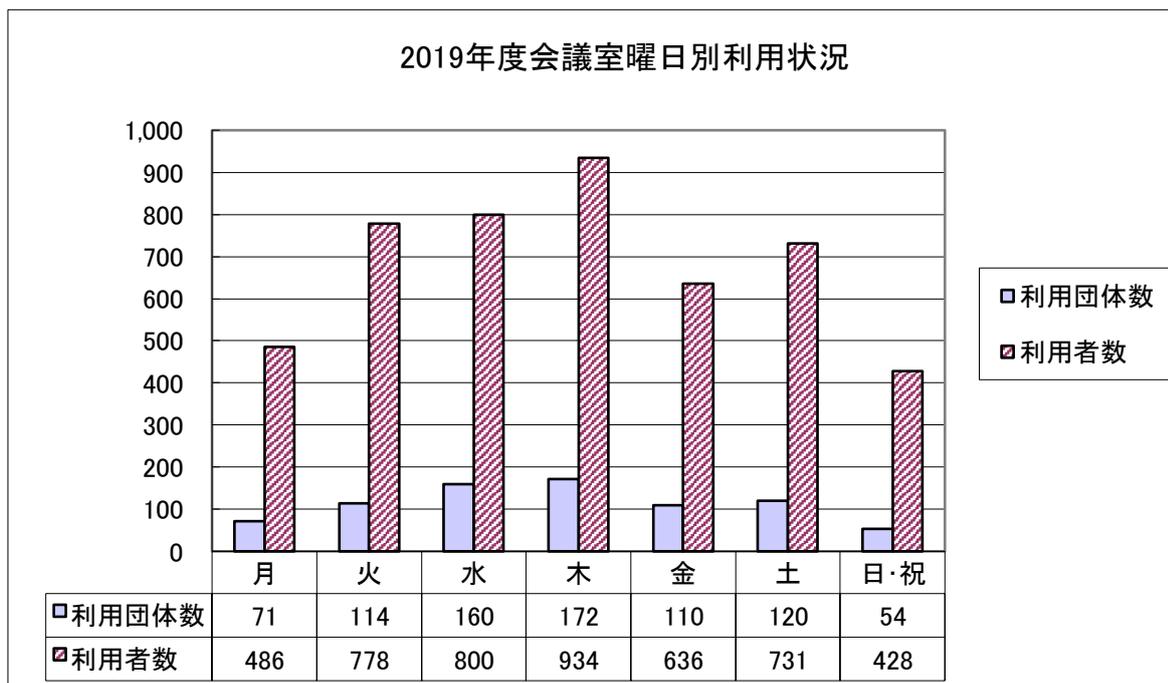
【センター利用状況(月間)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用団体数	55	67	72	73	69	71	79	75	70	65	62	43	801
利用者数	383	427	444	424	365	422	416	435	378	401	432	266	4,793



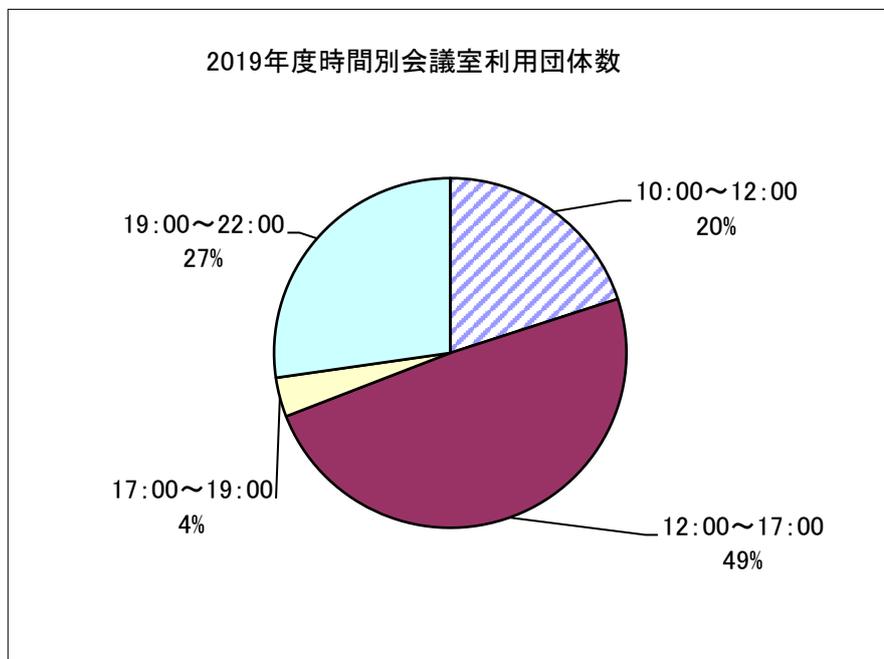
【センター利用状況(曜日別)】

	月	火	水	木	金	土	日・祝	合計
利用団体数	71	114	160	172	110	120	54	801
利用者数	486	778	800	934	636	731	428	4,793



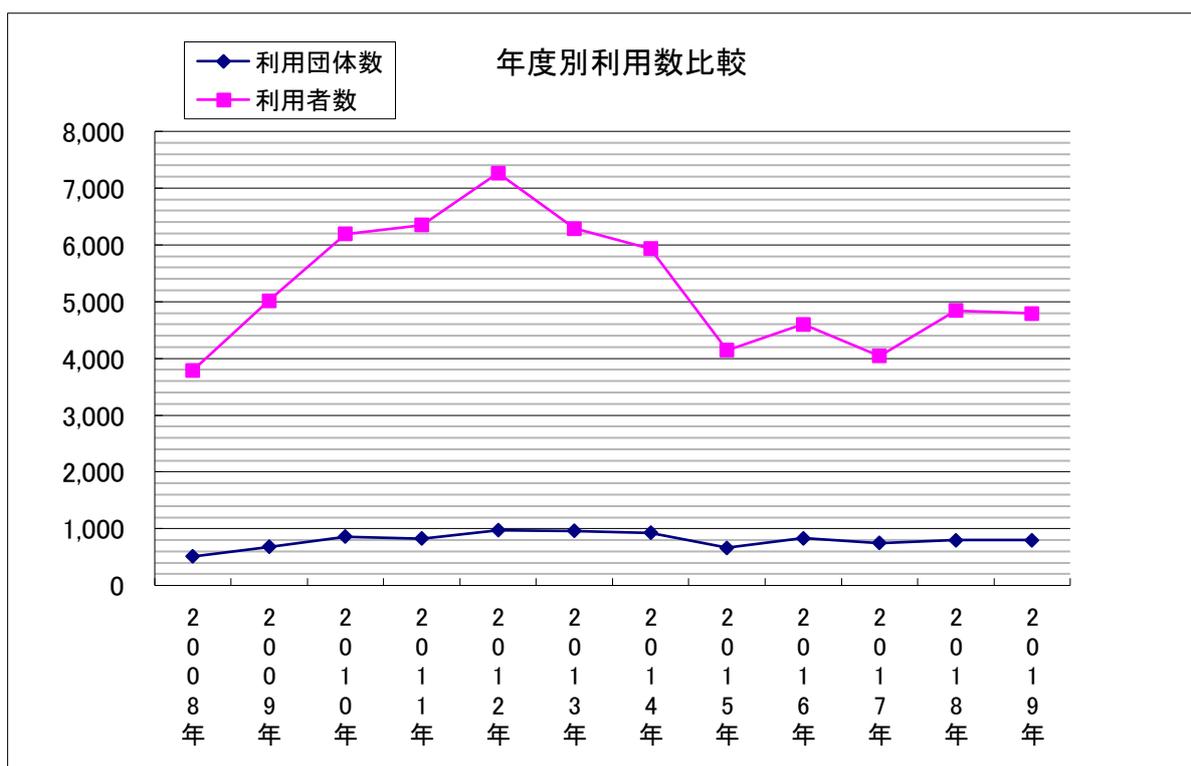
【時間別会議室利用団体数】

利用団体数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10:00~12:00	11	18	17	25	24	23	28	19	26	20	16	10	237
12:00~17:00	27	32	34	35	29	30	28	37	28	31	28	21	360
17:00~19:00	2	4	4	2	0	5	4	5	5	1	4	1	37
19:00~22:00	15	13	17	11	16	13	19	14	11	13	14	11	167
合計	55	67	72	73	69	71	79	75	70	65	62	43	801



【年度別利用数比較】

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
利用団体数	510	682	862	828	972	960	929	663	833	750	796	801
利用者数	3,790	5,015	6,191	6,352	7,266	6,290	5,932	4,146	4,598	4,046	4,842	4,793



(2) 市民活動基礎講座ならびに市民活動スキルアップ講座の開催業務

内容	<p>市民活動団体、行政がそれぞれの役割を果たしていく「協働」のまちづくりが求められている背景を受け、市民活動団体に協働のパートナーとなる組織力向上の講座を開講した。運営に欠かせない諸事務、運営に必要な資金、情報、人材等の活用をテーマに参加を呼び掛けた。全体的に参加者が少なかったが、個別指導の時間を充実させ、学んだことを各団体の実践に直結してもらえるよう、支援することができた。多様な活動分野でそれぞれ活動する市民活動団体が集い、互いの活動内容や課題を情報交換する機会になり有意義だった。</p> <p>第1回 効果的な企画書の書き方 2019年4月20日(土)10:00～12:30 参加者：1名 市民活動団体にとって、活動・事業を他者に伝える力はとても大切である。補助金・助成金の申請時はもちろん、事業推進の上で協力者や連携先への事業説明の際には、分かりやすい企画書の提案が必要だ。この講座ではワークシートを活用し、実際の提案書づくりを行った。</p>  <p>第2回 共感を呼ぶプレゼンテーションの技術 2019年6月1日(土)13:00～16:00 参加者：8名 活動への賛同を得たり、仲間を増やしたりすることに問題意識を持つプレゼンテーションの技術を学んだ。補助金・助成金の2次審査に向けた資料づくり、団体紹介のリーフレット等をパワーポイントとして資料にする作業を行った。★詳細は P.8 へ</p>  <p>第3回 伝える力文章力UP講座「ファンを増やす情報発信術」 2019年10月13日(日)9:30～12:30 参加者：22名 情報発信の重要性、必要性を日々感じながら、「何を発信すればいいのかわからない」「どうしたら情報が拡散するのか」と悩む団体が多い。情報を言語化する「文章力」を高めることで、「共感」や「信頼」を生むことを確認。「読み手を意識して書く」ことを実践的に学び、「ファン」を作るためのエッセンスを共有した。★詳細は P.9 へ</p>  <p>第4回 基礎から学ぶ NPOのための会計講座 2019年3月28日(土)10:00～12:00 参加者：4名 NPO法人会計を学びたい参加者対象に、税理士による講義を行った。一般市民への積極的な情報開示が求められる中、活動を裏付ける正確な説明のため(説明責任)の書類作りであることを確認した。後半は「現金出納帳」「預金出納帳」「総勘定元帳」から「活動計算書」「貸借対照表」「財産目録」を作成するワークで学びを深めた。★詳細は P.11 へ</p> 
対象	協働のまちづくり・市民活動に関心のある一般市民
手法	・地域で活動する多様な団体を対象に、運営上の課題を解決することを目指した具体的なスキルの向上を目指した講座を開催した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・広報、会計等の技術的な学びについては、専門家を招聘し、参加団体のニーズに寄り添いながら、講座での学びを団体に持ち帰って活かせるような内容とした。 ・地域社会の多様な担い手が様々な場面で協働し、それぞれの長所を發揮できるよう、交流の機会となるよう工夫した。
結果 課題	<p>講座への参加を通して、互いに日常的に抱える運営課題について情報交換し、解決の糸口を探る機会とすることができた。人材不足、資金不足に課題を感じる団体が多い中、その獲得のためには団体の信頼性向上、適切な情報開示が必要であると感じた。そのため求められる広報、事務処理などのスキル支援を通して、各団体が力をつけ、結果、協働のまちづくりの担い手育成を地道に続けていくことが必要だと感じた。</p>

(3) 機関紙発行とこれに付随する情報収集業務

内容	<p>「夢サラダ」(年間2回)、「得夢サラダ」(年間12回)を編集、発行した。また、一般市民が訪れる場所に「夢サラダ」を設置し、活動経験のない一般市民に情報を届け、市民活動の意義や魅力を伝えた。</p>
対象	市民活動団体・一般
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の担い手を紹介することで、まちの特性を感じることができる誌面とした。 ・ホームページでも情報を伝えた。
結果 課題	<p>市民活動団体106団体、施設・機関35箇所に配布した。配布部数は、毎月冊子1,910部、掲示用350部となった。身近な地域の魅力を伝える誌面構成としたことで、市民活動経験のない方にも読みやすいとの意見をいただいた。掲載内容は、本会のホームページへ掲載し、多様な方へ情報を届けるよう努めた。より多くの方に購読してもらえるよう、誌面の工夫、配布・掲示場所の開拓に取り組んでいきたい。</p>

(4) 市民活動団体相互の交流推進業務

<p>◆使用者協議会</p> <p>センター登録団体を中心に、市民活動団体の活動基盤の向上、それを支援する当施設の運営内容へ意見をいただく協議会を開催した。登録団体やボランティア等から日ごろの活動を紹介いただく機会し、同規模の活動団体が多い中、運営のヒントとなる情報交換を促すことができた。なお、年度初めの会議前には「施設防火訓練」を行い、安全な施設使用への認識を確認した。12月の会議前には「施設清掃」を行い、日常的に使用してる施設の美化への参画をお願いできた。</p> <p>2019年5月8日(水)13:00~14:30 参加者:10名</p> <p>事務室使用団体、会議室使用者と合同でセンター防火避難訓練を行い、その後、今年度のセンター事業の企画内容を説明し、使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。使用者は互いの活動を報告し合った。参加団体からは団体の活動内容を知らせ合ったり、一緒にイベントを企画したりする機会があれば、連携が深まるのではないかとの意見があった。ネットワークづくりにつながり事業づくり等をテーマに学び合いたいとの思いを共有した。</p>	
◆使用者交流会	

2019年12月7日(土) 13:00~15:30 参加者: 22名

依存症、発達障がい等の当事者、家族の会の「歩み」と「実績」、感じている「課題」を共有する時間を持った。「本人の努力が足りないのでは…」「親のしつけの問題では…」、そんな声に悩んだ日々。当事者、そして家族だからダイレクトに感じる生きにくさに向き合う中で、自助グループの立ち上げ、必要なサービスの構築、公的機関との連携等と、活動の段階を経て、今がある。そのプロセスには多くの学びがあった。自ら声をあげること、そして多様な人・組織とつながることの大切さを再確認。参加者一同がよりよい地域づくりのために何が必要か、自分たちは何ができるのかに思いを巡らせた。

★詳細は P.12 へ



2019年12月16日(月) 11:00~12:00 参加者: 16名

センター使用者によるセンター大掃除を行い、その後、センターの管理運営業務などについて使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。会議室使用時のマナー等についての意見があり、使用者が次の使用団体のことを考え、気持ちよく使用できるよう、心がけをするよう促すことを確認した。備品・設備等については良好に活用できているとの報告があった。



対象	使用登録団体・市民ボランティア・行政職員
手法	<ul style="list-style-type: none">・今治市内の団体の活動紹介の場とする。・多様な活動に触れ、活動の広がりを感じてもらえる取り組みとする。・センターの使用に主体的に関わっていただけるよう依頼する機会とした。施設・設備、備品などのハード整備の優先順位、講座などのソフト支援の重要事案などへの共通認識構築の場とする。
結果課題	年度初めの4月、年末の12月に「使用者協議会」の位置づけで、センター事業を話し合う機会を設けた。会議室や事務所の使い方のルール等の見直し、講座のテーマの検討等、ハード・ソフト両面について、使用者自らが参画しながらセンター運営していけるようにするための協議の場となった。今期より、12月に「NPO交流会」を開催した。市民活動団体の多くは運営上の問題を抱えていたり、多様化する地域課題解決へ向けた協力者を求めていたりする。今治市内の市民活動団体同士が情報交換する場を提供し、互いに持続可能な団体運営の共有ヒントを共有すること機会として有意義だった。

協働の担い手講座

パートナーに求められるチカラとは



魅力あるまちにするために「協働」のパートナーとして期待される市民活動団体。担い手には企画から評価まで全ての段階に責任を持って関わる力が求められます。今治市民活動センターでは「企画力」「運営力」「会計力」等のスキルアップを応援する講座を開催しています。これまでに開催した講座の内容をお伝えします。

「効果的な企画書の書き方」

思いを実効性のある書面にしていく作業！

それが「企画書」づくりです。活動を継続的に展開する上で必要な資源として、「人・モノ・資金・情報 etc」があります。多くの方が「資金」を獲得する際に求められる書面が「企画書」であるというイメージがある様子。ただ、「企画書」を書き上げるには、団体の活動の目的、そして目的達成に向かうことができる組織の体制が必要だと気づかされます。

この日の参加者からは、会員減少、一部の役員への負担増加等、組織運営の問題に直面している声が…。まずは、団体内部で思い描くビジョンを共有。これが支援者として想定される補助・助成元に賛同を得る前提であることを確認しました。

「プレゼンテーションの技術」

「企画」の中身を対面で伝える作業！

この日は「プレゼンテーション」技術を学ぶ講座。プレゼンテーションは相手への「プレゼント」です。あなた自身の“情熱”と合わせて、先の見通し、さらには聞き手の視点に寄り添う説明することが大切です。聞き手が“納得”し、“行動”してもらうことがプレゼンテーションの成功だからです。



書面では伝えきれないことを整理。限られた時間を使って、伝えたい事をまとめられるよう「序論→本論→まとめ」を考えます。

◀「パワーポイント」を初めて使う参加者も。まずは「表紙」作り。色彩の原則、全体面積の使い方をイメージです。



後半は実際に「企画書」づくりにチャレンジ！

企画の構成要素である「6W3H」をおさえ、取り組みたい事業の中身を言葉や数字で表現していきます。

イベントをする、冊子を作る etc、具体的な事業骨子を落とし込む前に、社会的なニーズ、そしてニーズに応えることができる推進体制の見直しが必要です。

企画の基本構成！6W3H

●ニーズの2W1H●

- *なぜ(Why?)
- *誰のために(for Whom?)
- *どの程度まで(How Far?)

●手法・場の3W1H●

- *何を(What?)
- *どのように(How?)
- *いつ(When?)
- *どこで(Where?)

●資源の1W1H●

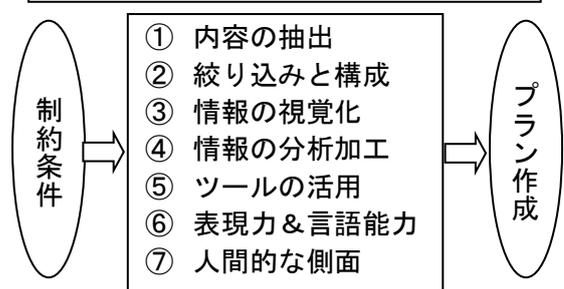
- *誰が(Who?)
- *いくらで(How much?)

「会員を増やしたい」「会議を円滑に進めるには…」内部的な課題が見えてきた参加者も…。「目的」を明確する「企画書」づくりの手法がここでも役立つはずですよ。

「パワーポイント」を使っての資料づくり

「伝えたい相手は？」「伝える手法は？！」補助金獲得に向けた準備、新事業の立ち上げの内部説明等、参加者がプレゼンテーションしようとする内容は多様でした。もちろん、伝える内容(企画の中身)は重要なのですが、伝える方法が相手の共感を得るものとなるかが、成功の秘訣です。ポイントを抑え、主流となっている「パワーポイント」資料作成のワークショップを行いました。

プレゼンテーションの構造



最後に全員が「プレゼンテーション」にチャレンジ！補助金・助成金の審査を想定し、4分間で伝えたい事をまとめました。「呼びかけるようなパフォーマンスがいい」、「抽象的すぎて、中身が分からなかった」といった率直な意見が飛び交い、互いに助言し合う有意義な時間となりました。



(参加者の感想)

- 今のメンバー全員が、楽しく活動できるようなわくわくする企画を考え直したいと思った。
- 団体を立ち上げたばかり。とても勉強になった。
- 実際に資料が出来上がり、自信ができた。
- 学んだことを団体内部で共有したい。



伝える力 文章力UP 講座 ファンを増やす情報発信術



◀情報発信は「売り込み」ではない。読者が「知りたいことを書く」視点が大事と助言する山口氏。

イベントに参加してもらおう！仲間を増やす！活動の輪を広げるために団体のミッション、事業内容等を適切に伝えたいと思う機会が多々あります。多くの団体は「何を発信すればいいのかわからない」「どうしたら情報が拡散するのか」と日々、悩んでいる様子。「皆さんは価値ある活動をしている。それが伝わらないのはもったいない。」、お迎えした講師の山口拓朗氏は、情報を言語化する「文章力」を高めることで、みんなを幸せにできる！と情報発信の楽しさを語りました。言語化することのメリットは「残る」ということ。読み手の記憶に残り、それが「共感」や「信頼」を生みます。ポイントは「読み手を意識して書く」こと。実践的に学んだ講座には「ファン」を作るためのエッセンスが溢れていました。



活動には「価値」があるはず。ただ、それが伝わらなければ「価値」にならない。「話す」ことでも伝えることはできるが、「書く」ことは認知となる。言語化することは、世の中に溢れている「情報」を届ける手段だ。つまり「情報」は「あるか、ないか」ではない。「生み出すか、生み出さないか」なのだ。インターネットというツールを得て、誰でも「情報」を発信できるようになった。まずは思い切って「書く」作業をしてみたい。その際、意識して欲しいことは、情報発信によって『他者・社会に貢献する』ということ！そんなメッセージから講義はスタート。

「多くの方が自分の書きたいことを書いている」確かにそうだ。
 “自分が書きたいことを書きたいように書く”これでは伝わらない。
ポイントは2つ！ 読み手を明確に。読み手のニーズを明確に。
 “何を必要としているのか” “何を知りたがっているのか” 想像力を働かせ、伝えたいことを読み手に役立つ情報として再構築することが重要だ。



他者・社会に貢献し、ファンを作ることができる！

読み手本意のポイント4つ！

- 読み手が知りたいことを
- 読み手が納得するように
- 読み手が興味を持つように
- できる限りわかりやすく



プロローグ



「どこにでもある岩山。何に見えますか？」

そんな問いから講義はスタート。岩山をその形から「コーヒーポット・ロック」と名付け（＝言語化）、発信した。結果「コーヒーポット・ロック」はガイドブックに載り、「コーヒーポット・レストラン」もできた。ただの岩山が情報発信により、意味（＝「価値」付け）を与えられた面白いエピソードだ。「価値」がなかった岩山は社会に認知されるというメリットを得たのだ。

出版社で6年間、全国各地を飛び回り、原稿を書く仕事をしてきた。ここで「鍛えられた」と振り返る。「文章は才能ではない。“基本”と“コツ”があれば書けるようになる。」と山口氏。講義ではその一端に触れることができた。情報は溢れており「書いても早々読まれない。思い切って書いてみよう。」と背中を押す。自身は2009年にブログを書き始めた。この作業が人生を変えたという。「役に立った」「勉強になった」とのコメントが届く。自分のノウハウが他者の「価値」になることを知った。書籍発行にもつながり、今や全国各地で文章の講座を担う。中国5都市での講義も展開しており、情報発信で成果を出したいとの思いは世界的な大きな流れだという。



読み手が「知りたいこと」を考え、それについて「納得するように」「興味を持つように」「できる限り分かりやすく」言語化する。このポイントをおさえ、ワークにチャレンジだ。まずは個々人の発信したい「テーマ」と「読者ターゲット」を明確にした。ニーズを探る時、できるだけターゲットを絞り込むよう助言があった。「30歳・女性」etc. 面白いのは絞り込むと、その周辺にも届く情報になるということ。ターゲットが決まったら、「何に困っているんだろう」「何に悩んでいるんだろう」という、ターゲットのネガティブな情報へ思いを巡らせる。この作業が『他者・社会への貢献』につながるのだ。



お役立ち情報 (専門性のある情報)



- ◆楽しませる
- ◆喜ばせる
- ◆癒す
- ◆元気を与える
- ◆感動させる
- ◆共感を誘う
- ◆驚かせる
- ◆代弁する
- ◆○○な欲求を満たす
- ◆○○な悩みを解消する



自問自答のススメ
文章力UPの近道

文章力を伸ばす方法として、山口氏から教わったのは“自問自答術”。読む人の変わりに自分に質問し、その質問に答えてみる。講座では2人組で質問したり、答えたりするワークを行った。質問の仕方は「5W3H」。「質問も大事、答えも大事」。上手な質問、丁寧な答えづくりは情報の源泉だと感じた。読む人の立場に立って書くスキルにつながりそうだ。

■質問の5W3H■

- * Who (誰が/どんな人が)
- * What (何を/どんなことを/どんなものを)
- * When (いつ/どんなときに)
- * Where (どこで/どこに/どこへ/どこから)
- * Why (どうして/なんのために)
- * How (どんなふうに/どうやって)
- * How many (どのくらい)
- * How much (いくら)



◀「Why」が特にいい質問になる。普段から意識して応答してみてください！

(参加者の感想)

- 即、見えそうな実践的な内容だった。
- 3時間があっという間だった。いかしていきたい。
- 講義とワークのバランスがちょうどよく、集中して時間を過ごすことができた。
- 日ごろから、情報発信の切り口を意識して探しておこうと思った。

私たちはどんなことで「貢献」できるだろうか。

「貢献ネタ」を書き出してみる。書き出すことは自己認識になり、実際に書く時のパワーになる。次に取り組んだのは質問づくり。そしてその質問に1行で答える訓練だ。ここでポイント！「私はこう考える」と答えにオリジナリティを！！一般論も大事だが、個人の見解が魅力になるのだ。実際に情報発信する時はこれを膨らませればいい。

◀“貢献ネタ”を書き出すワークに挑戦！ポイントは「こんなこと役に立たないよね」と自分で線を引かないことだ。

インタビューワークで自問自答術獲得へ。質問するのも、答えるのも難しかったとの声。



最後にプレゼントとも言える「テンプレート」が提示された。「白紙から書くのではなく、型がある」というのは心強い。

「テンプレート」にそって、相手に「話す」「書く」ワークを実践。情報が整理され、聞き手の理解度がぐっと高まることを実感した。

すらすら書ける
2つのテンプレート

列举型

全貌
列举1
列举2
列举3
まとめ

◀比較的、書きやすいテンプレート。全体像を示すことから。その際、「…は3つ」と数字で示す。冒頭で「結論」を明確化することが分かりやすさにつながる。

情報発信型

背景
結論
理由
効果
具体例
まとめ

◀読者への説得力を持った文章になる。ターゲットの「困り事」を背景に書いてスタートするといいい。大切なのは「理由」は明確にすることだ。

情熱で書いて、冷静に直す！印象に残った言葉の一つです。「書くときは多少“書き手本意”になってしまうことは仕方がない。読み返すことで文章のクオリティは各段にあがる」と山口氏。今回、チャレンジしたワークは繰り返すことが大事だと感じました。特に「自問自答」はおススメ。情報発信のストックを増やしなが、皆さんの情報発信が楽しく、魅力的になっていくことを願います。

基礎から学ぶ NPOのための会計講座

～協働の担い手講座～



財政基盤が脆弱な団体が多く、会計処理等に関する専門的知識を持つ人材が不足している現場…。会計を負担に感じている方が多いのではないのでしょうか。ただ、活動に賛同する人や組織から資金を提供してもらい、活動を創造する私たちにとって、使用したお金の報告をきちんと行うことは重要です。今回は会計の基本を座学とワークを通して学びました。

NPOにとって会計とは

会計＝資金・資材の出入りを管理すること

第三者にきちんと説明するための客観的資料作成

NPOとしての会計報告の目的は、一般市民に対して情報開示を行うことで、社会的な信頼とより多くの賛同者を得ることです。「誰のため」「何のため」にするのかを考えることで、その意義を共有しました。

★誰のため：資金を提供してくださる方（会員・寄付者等）
労力を提供してくださる方（ボランティア等）
一般市民のため（所轄庁へ提出）

★何のため：活動の分析（反省材料にする）
予算の立案（計画に従ってお金を集める）
活動を伝え、支持・支援者を増やすため

日々、帳簿をつける習慣を！

事実が発生した時点を把握！＝日頃からできることを

日々のお金の出入りについて、その都度（できれば毎日）、記録をつけていくこと！税理士の越智先生から、記録の大切さの説明を受けた参加者。時系列に証拠書類を整理しておくことも確認しました。

①現金出納帳をつける

：できれば毎日、少なくとも1週間ごとに記録！

②レシートや領収書を保管する

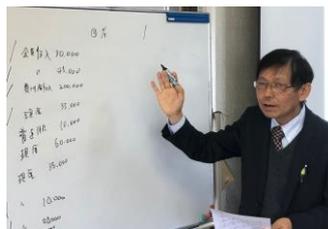
：1カ月単位でまとめる・時系列で貼り付ける

③1カ月ごとに各勘定科目を計算する

：月単位で経営状況を把握しておくで安心。

この3つの作業を行うことで、年度末に膨大な作業をしないで済むようになります。この日は、参加者みんなで

「NPO法人会計基準が定めたルール」をおさえながら、帳簿作成ワークにも挑戦しました。実際に書類を作成して試みることでポイントをおさえることにつながりました。



（参加者の感想）

- 基本的な会計用語から勉強になった。
- NPO法人設立準備中で、参考になった。
- 難解な部分が多い中、自分たちの力で処理しているのか…と感じた。
- 1年の流れから会計処理の意味を勉強できた。

NPO法人会計基準の策定の経緯

NPO法人の統一した会計報告のルール

①市民にとって分かりやすい会計報告

②社会の信頼に応えうる正確な会計報告

従来からNPO法人は「収支計算書」、「貸借対照表」、「財産目録」の作成をNPO法で義務付けられていました。ただ、具体的な会計基準はなく、NPO法人が作成する会計書類は統一化されていませんでした。その結果、外部の利用者にとっては、NPO法人の活動実態がつかみにくいという課題がありました。こうした状況を改善するために、平成22年7月20日にNPO法人会計基準が策定されました。



もっと詳しく知りたい時は… [検索](#)
「みんなで使おう「NPO法人会計基準」」
財務著表作成のために重要なチェックポイントを紹介しています！

NPO法人の会計書類

活動計算書：全体像

全体の「収益」「費用」とその差額を見せるもの
発生主義会計により、1年間の正味財産の増減を表す

貸借対照表：年度末時点の財産状況

「資産」「負債」「正味財産」のでの有高

*「資産合計」＝「負債合計」＋「正味財産合計」

財産目録：財産の内容を詳しく記載したもの

科目ごとに個別に「どこに」「なにが」あるか記載

*見た目は「貸借対照表」とほとんど同じ

財務諸表の注記：義務と任意選択の項目あり

重要視！！会計上の情報を明確にするためのもの
義務ある「7つの項目」
任意選択の「3つの項目」

「現金出納帳」「預金出納帳」「総勘定元帳」から「活動計算書」「貸借対照表」「財産目録」を作成！

「事業費」「管理費」の区分、「収益対応部門」「非収益対応部門」等区分も難解との声が…。

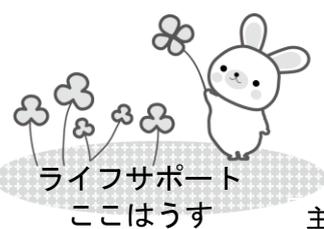


決算書の基本理念をおさえ、具体的な処理の流れをワークで確認した講座でした。具体例をもとにした書類作成ワークは一つの経験となったようです。会計に関する悩みは色々…。お気軽にご相談ください。

ボランティア・NPO 交流会 社会参加の意義 ～共感を育む現場から～

子育て、防災、まちづくり etc よりよいまちづくりを目指す市民主体の活動があります。多様な担い手が活躍する中、情報交換の機会は希薄。まずは人々がつながりあい、顔が見える関係を構築したい！そんな思いで開催した交流会のレポートです。

依存症、発達障がい等の当事者、家族の会の「歩み」と「実績」、感じている「課題」を共有する時間を持ちました。「本人の努力が足りないのでは…」「親のしつけの問題では…」、そんな声に悩んだ日々。当事者、そして家族だからダイレクトに感じる生きにくさに向き合う中で、自助グループの立ち上げ、必要なサービスの構築、公的機関との連携等と、活動の段階を経て、今があります。そのプロセスには多くの学びがありました。自ら声をあげること、そして多様な人・組織とつながることの大切さを再確認。参加者一同がよりよい地域づくりのために何が必要か、自分たちは何ができるのかに思いを巡らせました。



ライフサポート ここはうす

事例発表者

窪田久美 副所長
大車志穂 チーフ

★“ここはうす”の“ここ” 個々に応じて
「親の会」からスタート。一年後にはNPO 法人化した。「発達障害者支援法」施行など、公的支援は大きく変わった。より個別支援の必要性が責務。

主に発達障がいの方たちが地域で豊かに暮らしていくことを支援する団体。
当事者・家族・地域と共にチャレンジするプログラムを工夫している。



◀紙をおったり、テープを貼ったりする作業。ちょっとした工夫でできることは増える。



いまばりカラーズ

事例発表者

事務局メンバー

「発達障がいの特性がある子ども」の子育ての悩みや不安をかかえる親同士が支えあう会。安心して参加できる活動、勉強会を開催している。

★みんな違ってあたりまえ
カラーズに込めた思い
立ち上げメンバーの出会いはこの「ここはうす」での勉強会。同じ悩みを抱える保護者が共に声をあげようと発足。



★専門家も含め、理解者に恵まれて
他地域の親の会からの助言を受け、今治市に必要な公的支援・制度について、提言。「今治発達支援センター」設置への働き掛けも。「親の会」だからできる取り組みだ。専門家との連携の深まり等、支援者の重層化を願う。

◀相談会、勉強会等の保護者の活動と合わせ、子どもの活動も工夫してきた。夏休みの勉強会は「毎年助かる」との声。



ひなげしの会

事例発表者

吉住洋美 代表

ギャンブル依存症の当事者、家族のミーティングを開催。他地域の自助グループに繋ぐ、必要に応じてデイケア施設、医療機関と連携する等の支援活動をしている。

★“病気”であることを知って
借金を繰り返す家族…その具体的な症状を聞き、これは病気であるということを知った。本人も、家族も回復し続けるために、ミーティングは必須。

★依存症への偏見をなくすこと
IR 法で認知が広がったことは歓迎。県内でも複数の自助グループがある。今治の特徴は「当事者」「家族」が共に参加できる場づくりだ。他者に「知られたくない」と、今治市の人々が今治市の会に参加できないことが課題。



◀ミーティングの場・機会を精力的に増やす働きかけをしたいとのこと。



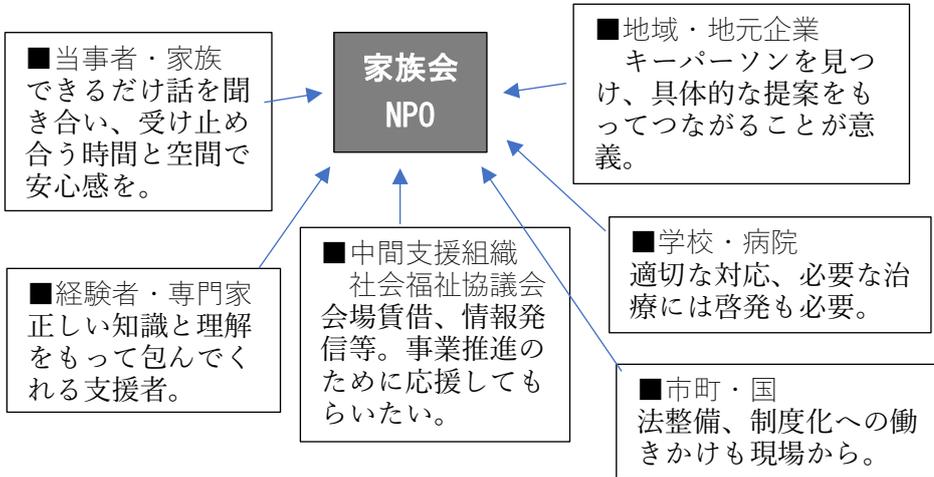
「家族会」からスタートして

3団体の取り組みから、社会参加の意義と課題、そして展望が見えてきました！

様々な関係者との出会いを整理！

定期的集まる！勉強会を開く！悩んだり、落ち込んだり…。恥ずかし

さ、悔しさ等の感情が渦巻いている場合も。そんな感情を共有できる時間と空間づくりがスタートです。当事者同士、経験的に理解できることを情報交換する。そして、次の一歩として、理解者を周りに増やす取り組みへ。どのように関係者と出会い、連携を進めていくのかに注力です。



皆が笑顔で、豊かに地域で暮らしていく。3団体に共通の目的です。7組織内部の人が共有すると共に、支援者、行政・企業・他組織等のパートナー等、多くの人に理解してもらうことが大切です。「目指していること」や「社会的なメッセージ」を積極的に発信していきたいですね。それが組織の信頼性につながります。



信頼される組織づくりへ向け課題を整理！

10年、そして20年と活動を重ねる中で、団体は多くの課題を抱えています。よく聞かれるのが「役員が足りない」「プログラムが慢性化している」等…。見直さなければと思っても、日々の現場の業務に追われて、対処できていないことも。地域の現状、当事者・参加者の声、他団体・他地域の動向を把握しながら、直面する課題は整理して、解決していきたいですね。

■組織・運営上の課題

■事業・活動の課題

- ・慢性的な人手不足。
- ・若手から役員が生まれない。
- ・事務局の負担が大きい。
- ・地域で情報が少ない。

- ・子どもが成長し、プログラムが組みにくい。(家族会独特の悩み)
- ・広域での連携が難しい。

- ・会の存在自体が知られていない。
- ・病気や障がいへの理解が…。
- ・専門家の理解が乏しい。

◀参加者同士の交流も進んだ。

■広報の課題

参加者の声

- ・団体の設立(ないものをつくってきた方達)が分かり、素晴らしいと思った。
- ・今治市の公的な支援や理解の現状が理解でき、参考になった。
- ・発達障がい等への理解が進んだ。成人期の支援の必要を感じた。
- ・たくさんの団体が活動をしていることを知った。発表者に「人間力」を感じた。
- ・ギャンブルに依存するという病気について生の声を聞いた。
- ・とても有意義だった。社会に正しく理解してもらえるよう学び続けたい。
- ・団体相互の理解の場づくりは大切。もっと対話があるとよかった。

「できることがこんなにある」、「かけがえのない仲間ができた」、小さな人間関係づくりは当事者・参加者の癒しです。そんな価値を生み出すためにはまずは団体に関わる人がいきいきと活動できる安定した基盤が必要ですね。そのために組織の中でモメごとを決めるルールや役割を整えることが必要！新しいメンバーを迎える時にも、活動の方向性を保つことにつながります。



“社会参加”をテーマに活動を共有し、誰もが地域で豊かに暮らし続けていくために必要なことを考える時間となりました。たった一人の気づきからはじまった活動。当事者がつながり、共感の輪を広げ、さらには公的なサービスや場づくりにつながっていくプロセスには大きく胸をうたれました。長い人生の中で、切れ目ない支援をどう構築するか、社会情勢が目まぐるしく変わる中で、状況にあった新たな支援をどう創造するか、まだまだチャレンジは続きます。

(5) ボランティアコーディネート業務

内容	ボランティアの応援を求めている方とボランティア活動をしたい方をつなぎ、双方が対等な立場で共に問題解決を図った。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・今治市社会福祉協議会と連携をとりながらすすめる。 ・情報提供を求めている人には、機関紙「得夢サラダ」やホームページなどを利用して活動を紹介する。
結果 課題	年間 71 件のコーディネーションを行った。ボランティア活動の経験がない方には来館、聞き取り、活動の斡旋を丁寧に行った。定年退職後の自由な時間を活用し、ボランティア活動をはじめたい人に主体的・自発的に取り組んでいただける活動を発掘し、紹介した。夏休み、春休みは学生のボランティア活動希望者の相談が多く、多様な分野・テーマの活動を紹介し、受給調整を行った。一人ひとりがまちを構成する重要な一員であることを自覚できる活動を調整する大切さを感じた。

(6) 相談業務

内容	団体設立や運営などのアドバイスを、電話・メール・来所にて日常的に受け付け、対応した。4年目となる支所単位での「出張相談会」は、相談件数は4件と少ないながら、今治市陸地部にある本センターには足を運びにくい島嶼部を中心に好評だったことを受け、今年度も島嶼部4島・6か所で開催した。
対象	市民団体・行政職員
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体が自らの課題を整理し、その解決策を発見することを支援する。 ・職員で対応できない専門的な質問については、地域資源（地域の専門家、他の支援センターなど様々なテーマに応えられる人、組織）を活用し、支援を行う。 ・初歩的な質問については、フロアーに掲示し、来館者に視覚的に知らせる。
結果 課題	<p>団体設立や運営など、126件の相談に電話・メール・来所にて対応した。ボランティア団体を立ち上げたい個人、グループからNPO法人設立・運営相談が寄せられるほか、広報相談、ネットワーク構築相談など多岐にわたる相談が寄せられた。相談に応えるだけでなく、相談者の次のニーズをコミュニケーションの中で引き出し、対応するよう配慮した。</p> <p>■使用者の声■</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても親切に対応してくれる。 ・優しく、丁寧で助かる。 ・休みの日や夜間なども相談対応いただけで助かる。 <p>■出張相談会■</p> <p>広域合併した今治市において、周辺地域にお住まいの方にも、地域の人々の支え合い活動、社会サービスの提供などについて、気軽に相談する機会をつくることを目的に開催。昨年に続き、島嶼部に限定して自発的な市民活動の促進、担い手育成を目指し、開催した。空き施設の活用、賑わい創出をテーマにした相談が寄せられ、仲間を募ってのグループづくり、プログラム立案の助言などを行うことができた。出張相談の機会は各エリア1回のため、その後は電話やメールなどで相談を受けたり、センターに足を運んでいただいたりして継続的に情報提供することができた。</p>

年に1回の出張相談日について、市民への周知が行き届いていないこともあり、相談件数が伸びていない。島しょ部の地域住民へ届く有効な広報の手段を検討し、出張相談会の実施を広く知っていただくよう尽力したい。

宮窪会場	6月18日(火)	10:00~12:00	1件
吉海会場	6月18日(火)	13:00~15:00	0件
伯方会場	6月20日(木)	10:00~12:00	1件
大三島会場	6月25日(火)	10:00~12:00	0件
上浦会場	6月25日(火)	13:30~15:30	1件
関前会場	6月28日(金)	10:00~12:00	1件

(台風の為、延期して開催)

■出張啓発ブースの運営■

不特定多数の市民が訪れる「今治市民の祭り「おんまく」子どものヒロバ」「今治明德短大学園祭」等の会場において、市民活動の啓発ブースを設け、子ども達に市民活動への理解を促したり、活動希望者・活動者への助言を行ったりした。



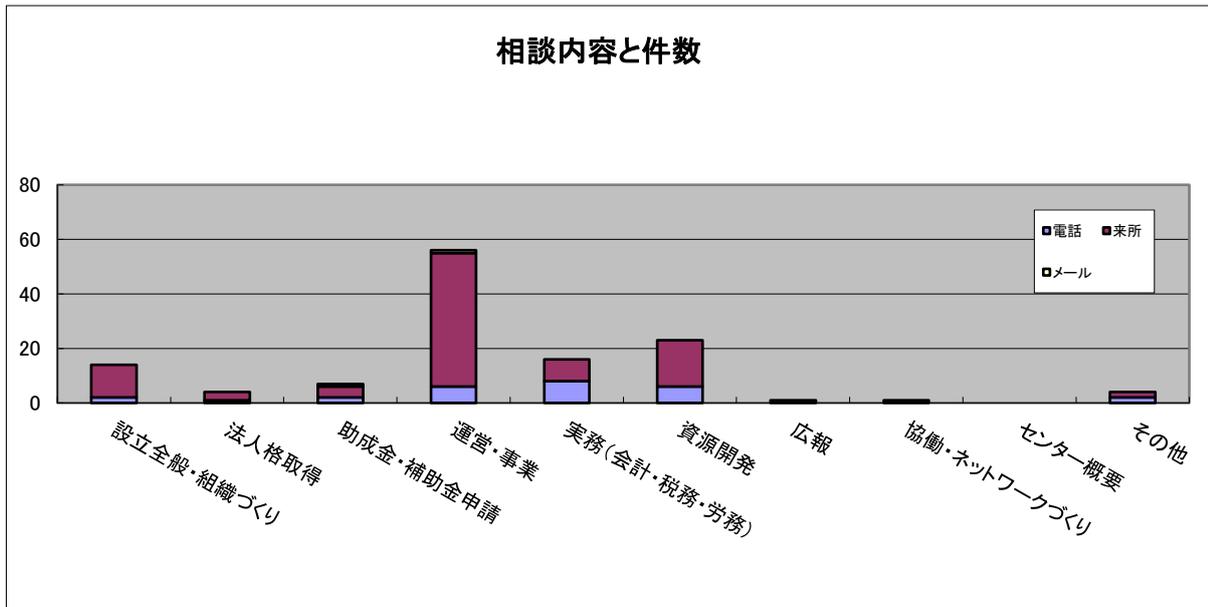
(7) まちづくりサポーター業務

内容	仕事や趣味などを通じて得た知識、経験や技術を、まちづくりのための様々な場所や場面にいかしていただけるよう斡旋・紹介を行う。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	・まちづくりサポーターとして活動できる組織・個人を登録し、HPで紹介する。 ・団体が内部の人材では解決できないことがある場合、斡旋する。
結果 課題	ボランティア活動希望者が相談に訪れた際には「まちづくりサポーター」制度の照会を行う等したが、新たな登録はなかった。個人が持つ専門知識、技術・能力、経験、人脈等をいかした登録、そのスキル等を発揮できる場とのコーディネートを行う業務として、制度の運用の見直しを検討したい。

相談状況詳細

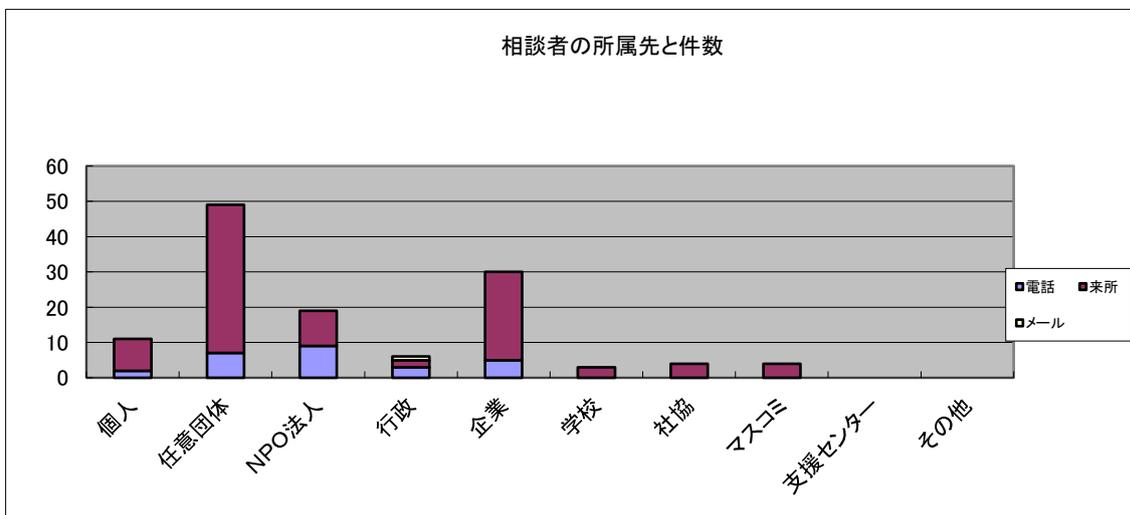
【相談内容と件数】

	電話	来所	メール	合計
設立全般・組織づくり	2	12	0	14
法人格取得	1	3	0	4
助成金・補助金申請	2	4	1	7
運営・事業	6	49	1	56
実務(会計・税務・労務)	8	8	0	16
資源開発	6	17	0	23
広報	0	1	0	1
協働・ネットワークづくり	0	1	0	1
センター概要	0	0	0	0
その他	2	2	0	4
合計	27	97	2	126



【相談者の所属先と件数】

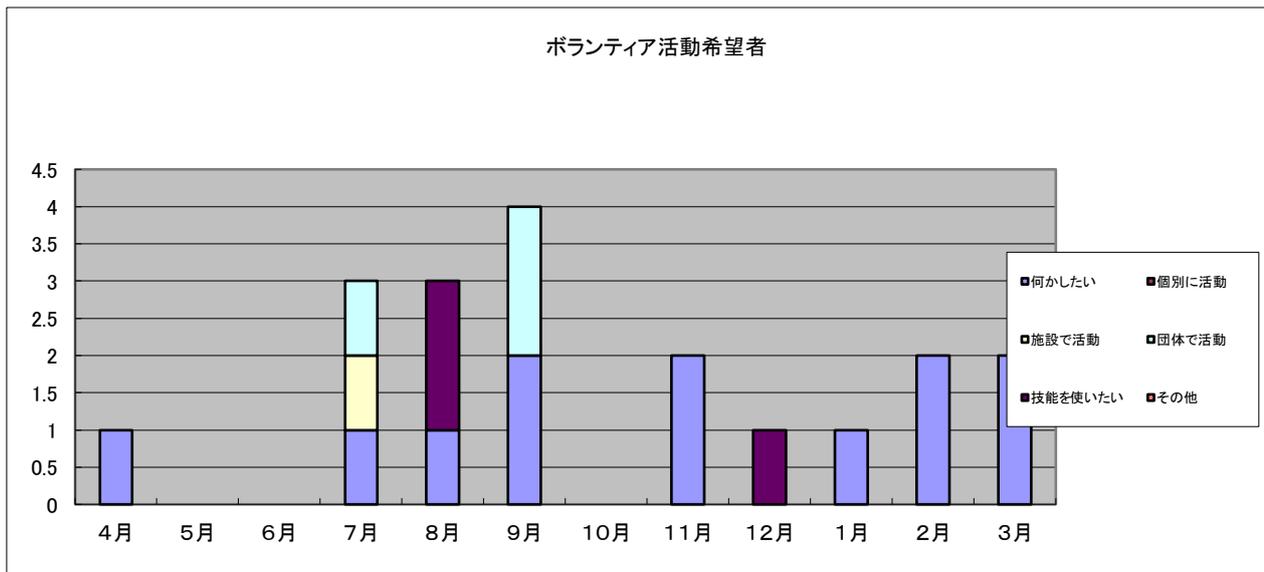
	電話	来所	メール	合計
個人	2	9	0	11
任意団体	7	42	0	49
NPO法人	9	10	0	19
行政	3	2	1	6
企業	5	25	0	30
学校	0	3	0	3
社協	0	4	0	4
マスコミ	0	4	0	4
支援センター	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	26	99	1	126



コーディネート状況詳細

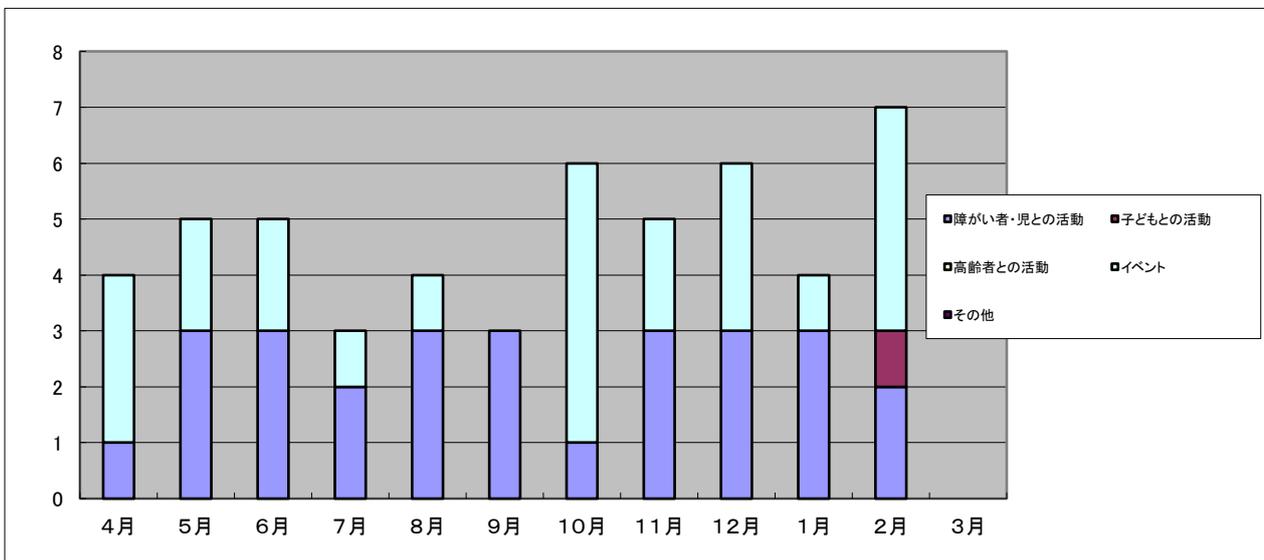
①ボランティア活動希望者

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
何かしたい	1	0	0	1	1	2	0	2	0	1	2	2	12
個別に活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設で活動	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
団体で活動	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3
技能を使いたい	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	3	3	4	0	2	1	1	2	2	19



②ボランティアを受け入れたい組織・個人

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
障がい者・児との活動	1	3	3	2	3	3	1	3	3	3	2	0	27
子どもとの活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
高齢者との活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イベント	3	2	2	1	1	0	5	2	3	1	4	0	24
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	5	5	3	4	3	6	5	6	4	7	0	52



2. その他の事業

(1) 情報提供事業

①トークカフェ in ラヂオバリバリ

期間：2019年4月～2020年3月

協力：エフエムラヂオバリバリ

地域の情報を広く社会へ伝える手段であるコミュニティ放送を媒体に市民活動団体紹介、ボランティア情報などを毎週1回に発信した。

今年度は、草の根活動の動きを大きなチカラにしていくために、ラジオを通して人と人の交流を深める趣旨で展開した。(今治市民活動センター管理運営事業自主企画事業)様々な分野の活動規模も多様な団体が、ラジオというメディアを通して、広報活動を展開する場となった。日々の暮らしの中で感じる些細な気づきをもとに、身近な仲間たちの小さなグループからはじまる様子が伝えられた点、少人数ながら思いや責任感や役割を分担し、地域に根ざして活動する様子などは、活動未経験者へ大きなメッセージとなった。一方、こうした活動が事業を継続したり、拡充したりする力が不十分な点も見え、今後、一つ一つの活動が成熟した市民社会実現を目指す大きな広がりになるよう、人的交流や相互連携を生み出していくしくみの構築を感じた。今後は、事例等の共有をより有意義に進められたり、活動に必要なしくみを学んだりできるような展開を考えたい。

②ホームページの運営

期間：2019年4月～2020年3月

センター事業の紹介と報告、ボランティア情報などをホームページに随時掲載した。広く情報を受発信することにより、ボランティア活動の仲介コーディネーション業務にも役立った。また、「今治市民活動センター」事業である「まちづくりサポーター」の制度紹介のページを設けた。サービスを提供したい個人・団体の紹介を発信した。NPO等、ボランティアの応援を求める組織のニーズ紹介等を充実させることが課題である。

(2) 審議会・委員会への参加事業

行政が設置する委員会・審議会へ参加しました。

期間	名称(主催団体)/参加の立場	テーマ・目的
2019年 5月21日/8月6日/ 11月7日 2020年2月19日	今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会	今治市人口ビジョンおよび今治市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に係る意見集約、提言。
2020年 2月19日	今治市総合戦略審議会	今治市総合計画【2016～2025年の10年間】の後期基本計画の重要事項を調査し、審議し、その意見を答申する会議への参加。
2019年 10月8日	中間支援組織ネットワーク会議(愛媛県)	多様な主体による協働環境整備を目指し、県内の中間支援組織や助成団体の情報共有のために開催。 ※2回の会議が予定されていたが、3月開催の会議は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。

(3) 講師派遣事業

依頼に基づき、講師やボランティアスタッフを派遣しました。

日時	名称（主催団体）/参加の立場	テーマ・目的
2019年 11月23日	岡山理科大学 今治学友会	第2回ゆめいこい祭への参加。実行委員会 が運営するイベントへの協力。

(4) その他の事業

2018年度に発災した「西日本豪雨」における被災地支援活動の実践、生まれたネットワークを
いかした災害ボランティア、災害に備えるネットワークづくりを推進した。

① 九州豪雨の被災地支援

必要物資の把握、発送などを今治市社会福祉協議会や
今治市と連携して行った。

【現地ニーズに基づき「今治タオル」の個装発送】

活動日：発送準備ボランティア活動 令和元年9月6日（金）



② 研修会への参加

「西日本豪雨」における被災地支援活動を振り返り、活動の現状を知り、次へつなぐ研修会に
参加。有事の際に能動的な動きができるよう中間支援団体の立場で考え、必要なネットワー
クを構築する必要性を再認識した。

【やりましょう！災害ボランティア～つながりが地域の防災力～

/公益社団法人今治青年会議所 主催】

日時：2019年9月29日(日)13:30～17:00

会場：バリクリーン（今治市クリーンセンター）



③ 地域協働ネットワーク構築支援事業への参加

中間支援組織を核として、NPOや民間団体等の多様な主体が連携して、平時から顔の見える
関係（ネットワーク）をつくり、地域で抱える様々な課題に効果的に対応できる仕組みづくりに
向けて、3カ年をかけて取り組むもの。今期は「災害時に備えた支援受援の仕組みづくり」をテ
ーマに体制づくりを検討した。

【第1回全県会議】

日時：2019年10月8日(火)13:30～16:00

会場：愛媛県庁第一別館11階大会議室

内容：県内の中心支援組織、自治体等が集まり、平時からの顔の見える関係づくりの必要性を
学んだ。



(4) その他の事業②

今治市民活動センターは「別宮小学校」の校区内に立地している。別宮小学校の福祉学習の中でまちを探検する授業があり、協力施設となった。小学校6年生約40名がセンターに来館。屋外スペースにあるスロープ、共用の障がい者用トイレ等、多様な立場の人が利用できる施設の工夫を学ぶ支援を行った。

受入日：2019年11月14日（木）10:00～12:00

全体テーマ「みんなにやさしいまち～じぶんのまち“別宮”“今治”をよくするために～」

上記テーマを設定し、車いす体験をしながら、いろいろな立場の人が安全・安心に暮らせるまちについて考えていた。当センターを初めて訪れた子ども達がほとんどで、当センターの設置目的、利用している市民活動団体への理解をする貴重な機会となった。

利用目的の説明

屋内のマークや設備の確認

屋外（スロープ）の確認



(4) その他の事業③

今治市のよりよいまちづくりに向け、市民参加等を促進することを目指し、学校法人今治明徳学園 今治明徳短期大と連携協定を締結した。

締結日：2019年9月25日

目的：相互に協力し、地域社会の発展のために寄与することを目的とする。

内容：目的達成のため、以下の事項について連携・協力する。

- (1) まちづくり及び地域活性化事業に関すること
- (2) ボランティア等の地域交流事業に関すること
- (3) 人材育成に関すること
- (4) 災害時の連携に関すること
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること

(4) その他の事業④

障がいを持つ方の地域での安心した暮らしを支援する体制構築が求められている。生活の場である住まいについては、グループホームへの入所希望ニーズ等が高く、今治市では「第4期今治市障害福祉計画」において、施設入所者のグループホーム等への移行推進を目標としている。障がいを持つ方の自己決定を尊重し、安定的に継続、維持するサービスの提供について、多様な主体が連携して推進することが重要だ。そこで、今治市における障がい者のグループホームの開設などについて学ぶ講座を開催し、福祉サービスの充実について考える機会として、以下の講座を開催した。

基礎から学ぶ「NPOのための障がい者 GH 開設講座」

日 時：2020年3月17日(火)14:00～15:00 個別相談 15:00～16:00

会 場：今治市民活動センター 大会議室

参加者：7名

※定款上、「その他の事業」は実施しなかった。

3. 会議に関する事項について

(1) 総会

①第18回通常総会

日時：2019年4月24日(水)19:30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2018年度事業報告・活動決算報告の件
定款変更の件

(2) 理事会

①2019年度第1回理事会

日時：2019年4月24日(水)19:00～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2019年度事業計画・活動予算の件
役員・有給役員
総会に付すべき事項の件

②2019年度第2回理事会

日時：2019年8月26日(木)12:30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：今治市民活動センター事業「スキルアップ講座」「交流会」の件
NPO啓発事業の件

③2019年度第3回理事会

日時：2020年1月7日(火)19:00～

会場：今治市内 飲食店

議題：今治市民活動センター事業「スキルアップ講座」「交流会」の件
自主事業の開催の件
今治市内の公共施設の評価の状況の件

④2019年度第4回理事会

日時：2020年3月11日(水)12:30～

会場：今治市民活動センター 大会議室

議題：2019年度事業計画・活動予算
2020年度総会報告事項